

50 . 魔法の鳥

クリスタリナという名前の王国が遠くにあり、王と女王がいました。彼らには三人の娘がいました。長女はイネス。次女はミルナ。三女はマリア。そして彼女が一番かわいかったのです。

王様は、三人の娘たちの中で、マリアを一番愛していました。彼は、彼女自身のための城を建て、このことで、ほかの二人の娘は、大変なたむようになりました。

イネスとミルナには、宮殿で最も安い雑用係が与えられました。そのような雑用係の一人は、王様の馬に餌をやるのが仕事でした。

ある日、イネスとミルナは王様に頼んで占い師を呼んでもらいました。

「何のためだ？」と王様は聞きました。

「私たちの運命のことが知りたいの。」と彼らは答えました。

そこで、王様は占い師に、すぐに宮殿へ来るように命じました。

その日、占い師が到着すると、イネスとミルナは早くから出て、道で彼を待ちました。

「友よ」と、彼が来た時、二人の少女が言いました。「私たちはあなたに提案があります。あなたはきっとそれを喜ぶでしょう。」

「それを言ってください。」と占い師は言いました。

「私たちの父である王様は、あなたに、彼の家族の運命はどうなるか、知らせてほしいのです。」と彼らは言いました。「さあ、聞いてください。彼の番が来たら、彼に率直に言ってください。もし、末娘を追い出さなければ、彼は物乞いのように貧しくなる、と。私たちはあなたに十分な褒美を差し上げます。」

占い師は同意し、宮殿に向かいました。

王室の家族は、占い師が到着すると、王様の部屋に集まりました。最初に彼は三人の女王たちの手のひらを見て、彼らの運命を語りました。次に彼は女王の手のひらを見て、彼女の運命を告げました。そして、彼は王様の手のひらを見ました。

50 . 魔法の鳥

「ああ、王様！」と占い師は言いました。「私はあなたに暗い運命を見ます。あなたが末娘を追い出さなければ、不幸があなたに来て、物乞いのように、貧しくなるでしょう。」

王様は末娘を大変愛していました。しかし、彼は物乞いのように、貧しくなりたくなかったのです。重い気持ちで、彼はマリアを森に行かせました。

イネスとミルナは、大喜びでした。彼らは占い師にカバンいっぱいの金を報酬として与えました。

王の兵隊によって、マリアが連れ出される前、女王は彼女に卵を与えました。「この卵を、一緒に持ってゆきなさい、子よ。」と女王が言いました。「あなたは、道の途中で空腹になるかもしれない。」

マリアは母に礼を言い、二人は涙で別れました。兵士たちはマリアをはやしに連れて行き、彼女をそこに残しました。

その夜、マリアは眠れませんでした。寒いし、卵をお腹に結びつけたのですが、あちこちに動きまわりました。しかし、ついに彼女は寝つきました。

次の朝、彼女が目覚めると、卵はどこにも見つかりません。そのかわりに、鳥が彼女の横に立っていました。

「私の名前は、バグシットよ。」と鳥が言いました。

鳥が話すなんて！マリアは不思議に思いました。

「あなたは、全く憂慮することはいりません。」と獲りは付け加えました。「私があなたのために、家を建てましょう。」そして鳥はそうしました。

「あなたは、僕が必要でしょう。」と鳥が言って、マリアが何も言わない前に、小さな少年が彼女の横に立っていました。

「あなたの名前は、クレト。」と鳥は小さな少年に言いました。「あなたは、マリアを助けて、家の中で働くのです。」

ある日、マリアとクレトは川へ魚獲りに行きました。彼らはたくさんの魚を獲り、家に帰りました。彼らはいくらかの魚を調理し、残りは、太陽

フィリピン 神話と伝説

で干しました。一日か二日で、干し魚は売れるようになりました。

林から遠くないところに、もう一つの王国がありました。それは、サツリノという名前の息子を持つ、王と女王によって支配されていました。

王子のサツリノは、美しい王女マリアのことを聞いていました。彼は彼女を妻にたくて、彼の願いを王と女王に話しました。

「行きなさい、私の息子よ。」と王は言いました。「そして、お前の仕事が成功するように。」

王様の最高の兵士たちと、王子サツリノは出かけました。彼は森の狭い道を進み、それがどこに通じるのか、見つけるように言いました。

兵士は道に従って、深く深く、林に入って行きました。ついに彼は家に来て、その家の前に、鳥が立っていました。

「お前はだれだ、そしてなぜここに居るんだ？」と鳥が問いました。

兵隊は自分の目を信じることはできませんでした。鳥が話すなんて！彼はしばらく言葉も出ませんでした。「王子サツリノ、私のご主人は私を使わしてこの道がどこに通じているか、調べさせました。私はそれが、この家に通じていることがわかりました。さあ、私は帰って、彼に報告しなければなりません。」

その兵士は王子のところに帰って、彼が見たことを報告しました。すると、サツリノはその道を歩み始め、兵士たちが従いました。

鳥はまだ、王子サツリノと兵士たちが到着する時、家の前に立っていました。

「いい天気だね！」サツリノは鳥に言いました。

「本当にそうですね！」と鳥は答えました。「私はあなたのために、何ができますか？」

「わたしたちはクリスタリナ王国に行く途中です。」とサツリノが答えました。「私たちは偶然この道を通りかかったんだ。」

その間、ずっとマリアは家の中にいました。彼女は、魔法の鳥と王子の間の会話を聞きました。そして、彼女は、王がクリスタリナの王国のことを話すのを、不思議に思っていました。

「君は一人でここに住んでいるのか？」とサツリノは鳥に聞きました。

「僕には二人の仲間がいます。少女の名前はマリア、そして少年の名前はクレト。」と鳥は答えました。鳥はマリアとクレトに、出てくるように言い、彼らを王子サツリノに紹介しました。

「王子様」と鳥が言いました。「お願いしたいことがあるんですが。」「頼み？」と王子が言いました。

鳥は干し魚が入った籠を示して、「どうぞ、この干し魚を私たちのために売ってください。」

サツリノは喜んでそれをやる、と言いました。彼の兵士たちは魚の籠を抱えて、そのグループは出て行きました。

数日して、彼らはクリスタリナの王国に着きました。王子サツリノは、すぐに王様に会いに行きました。

「何がほしいのですか？」と王様は聞きました。

「私は王女を探しています。」とサツリノは答えました。

王様は、ふたりの娘、イネスとミルナを呼んで、彼らをサツリノに示しました。しかし、サツリノは、どちらの娘にも関心がありませんでした。そこで、彼は王様に別れの挨拶を述べました。

彼らは、マリアや魔法の鳥が住む森への帰り道、村々を通り過ぎ、そして兵士たちは干し魚をすべて売りました。

魔法の鳥は、サツリノが帰ってくるまでの間に、感動を与えたいと思っていました。王子と彼の兵士たちがクリスタリナ王国を探しに行った後、鳥は棒を持って、地面に突き立てました。

「棒よ、私は、すべてが備わった城がほしい。」と鳥は言いました。

家は消えて、その場所に大きな城が建っていました。そこには、召し使いを含めて、すべてのものが備わっていました。

サツリノと兵士たちが帰ってくると、彼らの驚きは、際限がありませんでした。

「ようこそ王子様！」と、鳥が言いました。すると召し使いたちが、豪華なごちそうを用意しま

フィリピン 神話と伝説

した。彼らは大きな宴会を続けました。

食事が終わると、サツリノは彼が頼まれ、兵士たちが売った干し魚のお金を鳥に渡しました。そして、彼らは帰ってゆきました。

サツリノは、家に帰ると、彼の不思議な冒険を話して聞かせました。王様はマリアと魔法の鳥の話がとても気に入りました。「行って、その少女に会おうじゃないか？」と彼は提案しました。

次の日、王様と息子のサツリノと、兵士たちは、林の中の城に歩いて行きました。王様はマリアと城の扉のところで会い、彼は、彼女が息子の妻に本当にふさわしいと知りました。そこで、王様は彼女に、息子と結婚するように申し込みました。

マリアは気が進まない様子で、鳥は言いました。「私は鳥に過ぎない、マリア。私にはあなたをずっと世話をすることはできない。だから、あなたは結婚したほうがいい。」

マリアは結婚の申し込みに同意しました。

結婚式を行うための念入りの計画が林の城で行われました。クリスタリナを含む、近隣の支配者たちが結婚式に招待されました。

マリアの両親である王様と女王が彼女を見ると、礼儀正しく彼女の手に口付けをしました。

「彼女は、あなた方の娘、マリアです。」と鳥は王様と女王に言いました。すると、そして鳥は王様に顔を合わせ、「偽りの占い師が、あなたにマリアを森に追放するように命じるよう、言ったのです。」と、言いました。

次に鳥は女王に、「私はあなたがマリアに渡した卵です。私はあなたの娘に忠実に仕えてきました。」と言いました。

王様も女王もびっくりしてしまいましたが、大変うれしくなりました。

王子サツリノと王女マリアは結婚しました。結婚後、彼は彼女を、彼の両親の家に連れてゆきました。間もなく、森の宮殿は地面に沈みこんで、もう見えなくなりました。王様は、占い師を罰して、牢獄に入れました。そして、マリアの姉たち、イネスとミルナは、赦しを請い、赦されました。

練習問題

50 . 魔法の鳥

語彙の学び

次の言葉の意味を辞書で調べなさい。その言葉を使って、文章を作りなさい。

- 1 . soothsayer
- 2 . astounded
- 3 . related
- 4 . elaborate
- 5 . impress
- 6 . jubilant
- 7 . misfortune
- 8 . Extremely
- 9 . chores
- 10 . proceeded

空欄を埋めなさい。

空欄を単語や文章で埋めて、文章を正しいものにしなさい。

- 1 . 王様は、マリアに対する愛を表すために、彼女自身の()を建てました。
- 2 . 三人の娘がいて、マリアは()番目の娘で、一番()でした。
- 3 . イネスとミルナは、王様に()を宮殿に招くように頼みました。
- 4 . 王様はマリアを()に追放するように命じました。占い師が、もしそうしないと、王が貧しくなる、と言ったからです。
- 5 . 女王はマリアに、宮殿から追放される前に、()を与えました。
- 6 . 卵は、()に変わりました。
- 7 . 王子のサツリノは、彼とその兵士たちが、()へ行く途中であることを、話すことのできる鳥に告げました。
- 8 . マリアは、サツリノの()になりました。
- 9 . ()は、サツリノに、彼の兵士たちに干し魚を売るように頼みました。
- 10 . サツリノとマリアが出てゆくと、森の中の()は地面に沈みました。

明確化と発展の評価

- 1 . あなたは、占い師を信じますか？ 占い師についての、あなたの経験を分かち合いましょう。
- 2 . 占い師の言ったことをすぐに信じたことは、王様のどんな性格を表しましたか？
- 3 . 決定する前に、私たちは決定する基礎となる有効な情報をどのように集めなければなりません

フィリピン 神話と伝説
んか？

4 . 占い師には、どんな罰が与えられましたか？

5 . 占い師は罰を受けましたが、イネスとミルナは王様から赦されました。王様の決定をあなたは
どう考えますか？